

大星神社



大星神社大鳥居

青森市問屋町1丁目。妙見の交差点からすぐ大鳥居が見える。

鳥居からおよそ500mほどで大星神社の社がある。神社の北側を荒川が深く削りこんで意外に深い。この川はA TV本社のある辺りの松原2丁目で駒込川と合流して堤川となり、まもなく陸奥湾に出る。古くは船で往来したのではないかと想像が広がる。

妙見の地名は大星神社が「妙見宮」と称していたことから、残ったものだろう。青森市で最も古い縁起を持ち、現在、確認できる最古の神社かなとも思う。

明治三年までは、神仏分離令によつて妙見宮から大星神社に改称し、同六年に郷社に列せられた。妙見宮は弘前藩主の祈願所で外ヶ浜二帯の住民にも崇敬されたという。

そうした由来を証するものがこの面である。青森県史編纂室からお借りした貴重な写真である。鎌倉の鶴岡八幡宮に伝わる重要文化財の舞楽面は5

面だが、こちらは9面で他に能面二が残っていた。「室町〱江戸初期の作と見られる能面二面が残され、特に、舞楽面九面の内、納曾利・陵王・還城楽の三面は、檜材を使用して肉薄に仕上げられた、表裏とも布貼り黒漆塗りの優品で、中央で製作され、外浜の地に運ばれたものと推測されている。青森県内には、他に岩木山神社（近世の百沢寺）・櫛引八幡宮の二つが鎌倉時代製作の舞楽面を伝えており、妙見宮も、中世の文献史料を残していないが、この二社に匹敵する中世以来の歴史を有していたに違いない。」

「新青森市史 資料編2 古代・中世」

弘前藩四代藩主信政公は社殿を再建し、庭園を造った。このときに桜を植えたとき、樹齢約300年と伝わるシダレザクラがある。ここは桜の名所として有名で、以前はずいぶん賑わったところでもある。

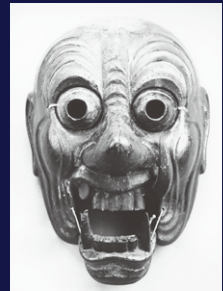
あおもりかいどう会議事務局



きとく
【貴徳】



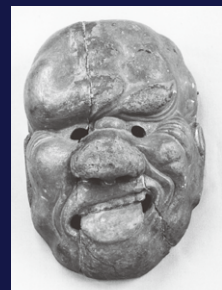
りょうおう
【陵王】



なぞり
【納曾利】



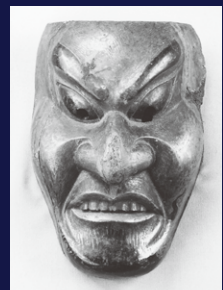
げんじょうらく
【還城楽】



にのまい はれめん
【二ノ舞 (腫面)】



にのまい えみめん
【二ノ舞 (咲面)】



さんじゅ
【散手】



ばっとう
【抜頭】



おうまい
【王舞】